

1 主題名 人と人がわかり合うために大切なこと 内容項目 B- (9) (資料「私の話を聞いてね」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 B- (9) は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自ら高めていくこと」をねらいとしている。中学1年生は、新たな環境で、学級の仲間や先輩との新たな出会いの中で、見方や考え方の多様性を実感することが多くなる。一方で、自分と他者の考えの違いが明らかになることを恐れたり、他者の言動に同調したりして、いじめに発展してしまうこともある。そこで本主題を通して、生徒一人一人に、自分の考えや意見を相手に伝え、互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立ち、いろいろなものの見方や考え方ができるようになることよき気づかせたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒たちは、課題について意欲的に考えたり、積極的に自分の考えを発表したりできる生徒が多い。一方で、他者とコミュニケーションをとることが難しい生徒や、相手の考えに過剰に反応し、批判的にとらえてしまう生徒もいる。また、自分の考えや思いを素直に表現しすぎてしまうことで、他人の気持ちを慮って相手の視点から考えることのできない様子が見られることもある。今後の学校生活で、自分の考えをもち、それを伝えることの大切さだけでなく、他者にも自分と同じようにその人なりの考えをもっていることに気づき、それを受け止めることの大切さを考えられるようにしたい。

(3) 資料について (「私の話を聞いてね」 出展：『中学道徳1 きみがいちばんひかるとき』)

本教材は、生まれつき右手に障害のあるページさんが、17歳のときに写真共有サイトに投稿したメッセージを基に、他者理解について考える構成となっている。その中でも、「全ての人を受け入れて」と訴えかけるページさんの考えを見つめ、自他の個性や立場を尊重し、違いを認め合っていこうとする態度を育てていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

○右手に障害がある女性のメッセージを通して、「人と人がわかり合うために大切なこと」について話し合い、自他の個性や立場を尊重し、違いを認め合っていこうとする態度を育てる。

(2) 準備・資料

道徳資料「中学道徳1 きみがいちばんひかるとき」・ポートフォリオ・掲示物・プロジェクター・ホワイトボード、ワークシート

(3) 展開

学習内容・活動	予想される生徒の反応	支援の手立て・評価（方法）
<p>1 今までの自分を振り返る。 ○今までに自分と他の人の考え方が違うなど感じたことはありますか。なぜそう思いますか。</p> <p>2 資料「私の話を聞いてね」を読み、考え、話し合う。 ○ページさんが、インターネットに投稿しようと思ったのは、どんな考えからだろう。</p> <p>◎ページさんの「この手から、『笑顔』を作ることができるんですよ。」という言葉には、どんな思いが込められているだろう。 ①ワークシートに自分の考えを書く。 ②グループで話し合う。 ③学級全体で共有する。</p> <p>3 人と人がわかり合うために大切なことについて考える。</p> <p>4 本時のまとめをする。 ○ワークシートに授業で考えたことや、分かったことを記入する。</p>	<p>・ある。遊ぶときや部活のときに意見が合わなかったことがあるから。 ・ない。あまり気にしたことがないから。</p> <p>・インターネットに流れている、個人または集団を攻撃したり、批判したり、おとしめたりするコメントを見て、嫌だと思ったから。 ・人と違って大丈夫だということに気付いてほしかったから。 ・その人の良さに目を向けてほしかったから。</p> <p>・人から見たら障害かもしれないが、自分にしかない個性の証だと思っているから。 ・人との違いに批判的な立場に立つのではなく、相手を知り、受け入れる心を持ってほしい。 ・障害があっても、前向きに考えることで、できることも増えてくる。</p> <p>・自分と違う考えや見た目でも、一方的に批判しないで、相手を知り、尊重すること。 ・自分の考えが全てではないことを頭に入れておく。 ・みんなの考えを聞いて、それぞれの立場になって考えることのできる人になる。</p>	<p>○自分との関わりで考えさせ、教材への方向づけを図る。 ○発言する生徒一人一人の言葉に耳を傾ける。</p> <p>○一人一人に語りかけるように、生徒の顔を見ながら資料を範読する。 ㊦ページさんの画像を掲示し、関心を高める。 ○ページさんの体験を自分置き換えて、同じような体験をしたことはないかと問いかけ、自分自身に重ねて考えられるようにする。 ○ページさんの右手の笑顔は、障害のある人だけでなく、攻撃をしている人へも向けたメッセージであることを押さえる。 ㊦書けない生徒には、ページさんの右手の笑顔は、障害のある人にとって、どんな意味があるか考えてみるように助言する。 ○個人で考えたあと、グループで共有する。 ㊦参考になった考えはメモを取り、意見をまとめる際に活用するよう助言する。 ①グループのホワイトボードをプロジェクターに投影し、発表しやすくする。</p> <div data-bbox="981 1451 1417 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評 広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解し、互いの個性や立場を尊重していこうとしている。 (発表・ワークシート)</p> </div> <p>○今まで考えてきたことを振り返り、自分と違う他者とわかり合うために、自分ができることを考えてみるよう、助言する。 ㊦教師の経験を話し、生徒が考える際の参考になるようにする。</p>

(4) 支援のための手立て

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| ㊦ 学び合いのための支援 | ㊦ 視覚からの支援 | ㊦ 個への支援 |
| ㊦ 安全確保のための支援 | ㊦ ふりかえり活動の支援 | ① ICTの活用 |



私は、生まれつき右手の指がありません。でも、みんなができることは全部できます。

（写真では左手のように見えているが、それはパソコンに内蔵されたカメラで撮影しているため。）

私は、14歳のとき初めて、それまで使ったことなかった義手を使いました。今、私は、義手の中の自分の小さな手の動きを通して、義手の1本1本の指を動かすことができるようになりました。



私は、これまでずっと、大人からも子供からも同じような質問を受けてきました。最近、小学校で子供と関わる仕事をしていて、ある子供が私の手のことを尋ねてきました。

私はいつもと同じように、「ねえ、どうして私の髪はブロンドで、あなたの髪はブラウンなの？ それは一人一人違うように生まれてくるからでしょう？」と話をしました。



こんにちは。私の名前は、ペイジです。私の話を聞いてね。



アメリカのニューヨーク州在住、ペイジ・エドワーズさん。彼女は、インターネット上に日々大量に流れている、個人または集団を一方的に攻撃したり批判したり、おとしめたりするコメントを見て、心を痛めていた。そこで、自らの姿を公開し、自分の考えを示そうと、写真共有サイトに投稿をしたという。当時、ペイジさんは、十七歳だった。ペイジさんの投稿は、たくさんの人々がそれぞれにもっている考えの一つにすぎない。ただ、自分の考えを知ってほしいと願って投稿したペイジさんのメッセージは、私たちに何かを考えさせてくれるのではないだろうか。

7 私の話を聞いてね

編集委員会



最後にいいことを教えますね。私はこの手から、「笑顔」を作ることができるんですよ。それでは、よい一日を！

考えよう

人と人がわかり合うために大切なことは、何だろう。

- ペイジさんが、インターネットに投稿しようと思ったのは、どんな考えからだろう。
- ペイジさんの「この手から、「笑顔」を作ることができるんですよ。」という言葉には、どんな思いが込められているだろう。

つなげよう

- 次の「ユニバーサルデザイン——誰もが使いやすいものを」を読んでみよう。



私は、誰かの足りないものに意識を集中するのではなく、その人たちがしていることに目を向けようと言いたいです。子供たちに、全ての人を受け入れることを教えてください。私はいつも、私の手について尋ねる人が子を抱える親に出会います。でも、本当は、そうやって抱えることが彼らを傷がらせるのです。親がそういう態度を取ることで、「遠まっていること」は、まるで「何か悪いもの、見下されるべきもの」となってしまうのです。子供たちに質問をさせてあげてください。彼らに、

人と違って大丈夫だということを学ばせてあげてください。

そして、私のように障害がある人たちが、あるいは克服しなければならぬなんらかの障害のある人たちへ——心に留めておいてください。障害そのものについて、あなたができることはありません。それは、あなたが常に、共に生きていかなければならぬものです。それならば、なんにか最大限生かして切ってみませんか。あなたが前向きに状況を見れば、人生は1万倍生きやすいものになります。